

学生の声

## 共通教育の英語を受講して

工学部 生物応用化学科2年 前田 高輔

「どうせ般教だし…。」そんな言葉をよく耳にします。「共通教育だから、勉強しなくてもいい。とりあえず出席していれば、単位をもらえるだろう。」どうやらこのような考えが学生の間で定着しているようです。「英語」という科目は共通教育科目の一つに属しています。そのせいか学生の英語の授業への取り組みがあまり意欲的でないように思われます。

私は工学部に所属しているのですが、工学部では英語にふれる機会がほとんどなく週に一度の共通教育の授業しか勉強するときがありません。それに加え大学の入学試験の科目にも英語という科目はなく、英語好きの私にとってはものすごくショックでした。工学部にいて感じることは、大学院に入ると英語の論文を読んだりしないといけなののに、英語を学習する機会がほとんどなく、高校までの英語で知識がストップしてしまい、しかも入試の科目に英語がないので、それさえも危うい状況のなかで本当に英語の論文を読めるのかなと疑問に思います。

だから共通教育の英語は非常に大切だと思う。福井大学では、TOEICで得点できる力を養うというのが共通教育の英語のテーマで、講義内容もそれに対応して、リスニング、精読、速読、総合にわかれています。半期を通して各パートを詳しく学べるので、私はこのシステムはすごく良いと思います。

最初にも述べましたが、共通教育科目だからあまり勉強しなくていいという考え方は止めたほうがいいと思います。とくに工学部の学生にとっては英語を学習する唯一の機会だと思うので、専門科目と同じくらい積極的に学ばないといけないと思います。英語は就職するときにも評価の一つにもなるし、研究をする上でも必須となるので英語は重要だと思います。ただ週に一度の講義だけで英語を身につけるとするのは非常に難しいと思うので、個々人で毎日少しずつ学習していかなければいけないと思います。